

2025年『撰集抄』設問別のよくあるミス

《緑は単語、青は文法、紫は古文常識、橙は記述方法がポイント》

(一) 傍線部ア・イ・エを現代語訳せよ。【各一行】〈ア〉やや易

存続

ア あさましく／やつれ／たる僧の、来たりて物を乞ふ侍り。

① あさましく::単語の訳が不適・不足

誤答例) 驚きあきれ ※「ほどに」などが必要

誤答例) 驚きあきれるほどで ※「ほどで」だと連用修飾ではなくなる

誤?例) 驚くほど(に) ※呆れるニュアンスも入れた方が適切

正答例) 驚きあきれるほど(に)

② やつれ::単語の訳が不適・不足

↑差がつくポイント

誤答例) やつれている ※現代語の「(病気などで)やつれる」とは異なる。

誤答例) 質素な格好「身なり・様子」

※質素だと(本当は)お金があるのに(単なる)慎ましい場合もある。

ここでは乞食なので不適。

正答例) みすばらしい格好「身なり・様子」

③ たる::助動詞の訳が不適・不足

誤答例) の ※存続・完了の助動詞「たり」の訳語として不適

正答例) 〴〵をしている・〴〵になっている・〴〵をした

解答例: 驚き呆れるほどみすばらしい格好をしている

(一) 傍線部ア・イ・エを現代語訳せよ。【各一行】ヘイ<やや易

断定 疑問

イ ひが目／＼に／＼やとよく見給へど、

① ひが目：単語の訳が不適・不足

↑差がつくポイント

正答例) 見間違い・目の錯覚

② にや：助動詞の訳が不適・不足

誤答例) ではなからうか ※「ない」という打消しは入っていません

誤答例) だろうか、いや、見間違いではない

※「反語」の訳だとその後の「よく見給へ」と矛盾する。

正答例) であろうか・であるのだろうか

正?例) だろうか ※現代語文法では「だろう」は「だろ(断定)」「だ」の未然形)

＋う(推量)「う」の終止形)「なので許容されるか?!

解答例：見間違いであろうか

「ひがめ」は東大古文2024年『讃岐典侍日記』の本文に出たばかり!

もし2024年を解いたのに、「ひがめ」や類語の「ひが耳」「ひがごと」を確認していなかったら、過去問の使い方がもったいないです!!

300語レベルの単語帳だと見出し語ではなく関連語レベルの語彙ですが、このくらいは東大受験生なら知っておいて欲しいです。

※「ひがめ(僻目)」は「ひが耳(僻耳：聞き間違い)」、

「ひがごと(僻事：間違い・誤り)」とセットで覚えておきましょう。

係助詞の「結びの省略」である「にや」も、東大古文で頻出です。

2024年にも「よく聞きおかせたまひたりしかばにや」「おぼしめすにや、」とニヶ所で登場していました。

※「に(断定の助動詞「なり」の連用形)＋ぞ・なむ・や・かこそ」はあり系を補う。

(一) 傍線部ア・イ・エを現代語訳せよ。【各一行】〈エ〉やや難

(宝日上人が)走り出で給ふめるを、取りとどめ奉らんと

し侍りけれども、さばかり木暗き繁みが中に入り給ひぬれば、

エ
力なく／やみ／侍り／けり。

① 力なく::単語の訳が不適・不足

↑差がつくポイント

誤答例) 追うことができず ※単語の意味から離れすぎ

誤?例) 何もできず ※慣用表現での一般的な訳と異なる

正答例) どうしようもなく・仕方がなく・どうにもならず

正?例) 力及ばず

② やみ::単語の訳が不適・不足

↑差がつくポイント

誤答例) 諦めました ※語義から離れる

正答例) 追いかける「引き留める」のは中止「終わり」になり

※「やめ(下二段::他動詞)」ではなく「やみ(四段::自動詞)」。

正?例) 追いかける「引き留める」のを中止し「やめ・終わりにし」

※他動詞だが、大学受験レベルでは許容されるのでは?!

正?例) (それきりで)中止「終わり・そのまま」になり

※「何を」が不足していると不自然

③ 侍りけり::丁寧語と助動詞の訳が不適・不足

誤答例) てしまいました ※強意(てしまう)の助動詞は入っていません。

正答例) ました

解答例: 仕方がなく追いかけるのは中止になりました

(補足) 「力なし」「やむ(四段)」は両方とも、『古文単語3ー5』では見出し語

(「力なし」は慣用表現)ですが、『古文単語330』などでは掲載無しの語でした。

300語レベルの本でも掲載語の差がたくさんあるので、映像授業【古文単語編】にある「古文単語3ー5と330の比較表」などをぜひご利用ください。

(二)「かきくらさるる心地」(傍線部ウ)とは、何に対するどのような心情か、説明せよ。【一行】標準

ア あさましくやつれたる僧の、来たりて物を乞ふ侍り。

さながら赤裸にて、ゑのこを脇に抱き侍り。人、後先に立ちて、笑ひなぶりける。あやしの者やと思して見給へば、清水寺の宝日上人にていまそかりける。イひが目にやとよく見給へど、さながらまがふべくもあらざりければ、

ウ かきくらさ／るる／心地して、(中略)隆明法印は、

あまりすべき方なく悲しく覚え給ひて、

①変な僧：説明問題で設問の要求「何に対する」の内容が不適・不足

誤答例) 奇行・まともとは思えない僧が ※もう少し具体化したい

誤?例) 笑われている「嘲笑されている」みすばらしい「貧しい」僧が

※「裸」を控えめに表現している。「乞食」の要素も入りたい。

正答例) 笑われている「嘲笑されている」裸の乞食「物乞い」が

正?例) 裸の乞食「物乞い」が ※「笑われている」は無くても許容されるか

正?例) 笑われている「嘲笑されている」異様な僧が ※「裸」「乞食」は必要

②宝日上人：説明問題で設問の要求「何に対する」の内容が不適・不足

正答例) (紛れもなく「間違はなく」)清水寺の宝日上人だった(方)

★文の構成:「変な僧が宝日上人だった」という時系列のままが自然。

「宝日上人が変な僧になっていた」でもOK。

③説明問題で設問の要求である「心情」が不適・不足

正答例) 悲しみ・悲嘆・悲しみに暮れる心情・悲しみて暗くなる心情

正答例) 驚愕と悲嘆 ※傍線部アに「あさましく」とあるので驚愕も入れて良い

解答例: 嘲笑されている裸の乞食が清水寺の宝日上人だったことに対する悲しみ。

(三)「この事、限りなくあはれに覚え侍り」(傍線部オ)とあるが、

語り手はなぜそのような感じたのか、説明せよ。【一行】やや難

里の者にくはしく事の有様を問ひ給へりければ、「いづくの者とも人に知られで、この村に住みても二十日ばかりなり」とぞ答へ侍りける。オこの事、限りなくあはれに覚え侍り。
何と、げに世を捨てといふめれど、身のあるほどは、着物をば捨てずこそ侍るに、あはれにもかしくも覚え侍るかな。

★思考のプロセス: 設問文の「語り手」は東大が与えてくれたヒント!

直後に「何と、」という感動詞があるので、ここに語り手の心情があります。
文末の「あはれにも」と一致しています。

①人に知られで: 説明問題で指示語(この)の具体化が不適・不足

正答例) 名誉「名声」を捨てて・世俗を遠ざけ・素性を隠し

※①②合わせて「名利」としても良いでしょう。

②着物をば捨てず: 説明問題で理由の該当箇所の要約が不適・不足

誤答例) みすばらしい姿でいる宝日を ※捨てていることが重要

正答例) 衣類への執着さえも捨てた「断った・排した」宝日を、

正?例) 物(への執着)を捨て「断ち・排し」た宝日を、※「衣類」不足

正?例) 全ての執着を捨てた「徹底して執着しない」宝日に ※具体化不足

★同年漢文のテーマが「執着」だったためか、各社の解答に「執着」がありました。

③説明問題で古文常識に合う説明が不適・不足

誤答例) 深い感動「敬意」を覚えたから ※それがなぜかの説明が必要

誤答例) 修行に励んでいる者だと思われたから ※程度が弱い

正答例) (ゝの姿に)出家者「遁世者」の理想を(垣間)見たから

正答例) 真の世捨人「真に仏道に忠実」だと思われたから

正答例) 完全に俗世を捨てた境地に至っているように思われたから

正?例) 執着を捨てようとする生き方の現れだと思われたから

解答例: 素性を隠し、衣類への執着さえも捨てた宝日を、

究極の仏道者だと感じたから。

(四)「よしなき人の思ひを、我のみ一方にはとどめじ」(傍線部力)とは
どういうことか、説明せよ。【一行】難

澄み渡る心の内は、いつも同じさきならねども、外の振る舞ひ
は百に変はりけるは、

カ
よしなき人の思ひを、我のみ一方にはとどめじと
思しけるにや。

①よしなき人の思ひを::説明問題で傍線部の訳が不適・不足

★「よしなし(由無し)」はへ①つまらない・取るに足らない ②関係がない

③方法がない ④理由がないなど。

人を修飾する場合、①②が多く、ここでは①で凡人・俗人を指す。

誤答例)身分の低い人のく※「よしなし」の語義から離れる

正答例)つまらない「取るに足らない」俗人「凡人」の尊敬「崇敬」(の念)を
正?例)地位や外見で判断する俗人「凡人」の尊敬「崇敬」(の念)を

※語義から離れるが、文脈に合うので許容されるか

②我のみ一方にはとどめじ::説明問題で「誰を」の補足が不適・不足

誤答例)受けたくないということ ※「のみ」「一方には」が不足

正答例)(高僧だと露見して)一身に受けることへの拒絶。

正答例)(高僧だと露見して)一身に受け止めたくないということ。

正答例)自分だけは普通(な固定観念)には留まるまい

※文脈上、この解釈も成り立つ。

(出題範囲外を含む『撰集抄』の解釈とはズレるが)

解答例:つまらない俗人からの尊敬を一身に受けたくはないということ。

(五)傍線部キの歌は、どのようなことを表しているか、説明せよ。

【一行】やや難

この上人ぞかし、中関白の御忌に、(中略)

キ
明けぬなり／賀茂の河原に／千鳥鳴く

今日もはかなく／暮れんとぞする

(中略)明けぬる^{即時}よりはかなく暮れぬべき事の、かねて思はれ給へりけるにこそ。

★思考のプロセス: 和歌の解釈は周辺情報(今回は右の「明けぬるより」)が重要。また、和歌が表すこと(主題)は人に関することがメインで、自然に関することはサブなので、「賀茂の河原」「千鳥」などは不要。

①明けぬるよりはかなく暮れぬべき: 説明問題で関連箇所の訳が不適・不足
誤答例)夜明けにすぐ日暮れが想起されるように ※婉曲的
正答例)夜が明けてもすぐに日が暮れる(と感じられる)ように、
正答例)瞬く間に「たちまち」明けては暮れる一日のように、

②御忌: 説明問題で文脈に合う説明が不適・不足
誤答例)人の栄光もすぐに消えるということ。 ※中関白に対して失礼誤? 例)この世は無常だということ。 ※「御忌」なので「命」を入れたい
正答例)人の命も無常だということ。
正答例)人生はあつけない「儚い・束の間だ」ということ。

解答例: 夜が明けてもすぐに日が暮れるように、
人の命もあつけなく無常だということ。